

教育・保育理念
 ・自分も友だちも大切に作る心の育成 ・学びの芽の育成 ・自分の可能性や能力を十分に発揮できる力の育成

令和6年度重点内容
 ・一人一人の人権を大切に愛されていると感じ、自尊感情を育む
 ・多様性を認め合い、意欲的に遊びを楽しみ、遊びを通して学ぶ
 ・こども園、幼稚園、小学校が連携し、学びと育ちをつなぐ
 ・地域とのつながりをより一層深める

園の重点項目
 一人一人の人権を大切にしながら、それぞれが認め合い、仲間とともに主体的に取り組み育ち合う力を育む

| 重点内容 | 重点内容に向けた具体策 | 評価項目 | 自己評価 | こども園関係者評価 | |
|-------------|---|--|-------------|--|-------------|
| 教育・保育内容 | 乳児の担当制について学び、実施する 自尊感情を育てるために異年齢交流を行う | 大人との愛着関係や安心感のもと、人を信頼し生きていく力の土台を形成する | A | 担当制やグループ保育を行ったり、一人一人の気持ちを丁寧を受け止めたりする中で「やってみたい」という気持ちが芽生え、身の回りのことに自分から関わる姿が増えてきた。個人差に配慮しながらその姿を認めることで、あきらめずに取り組めるようになった。異年齢交流を通して優しい気持ちを十分に味わえた。同年齢ではトラブルになる時もあったが、保育教諭が仲立ちとなり友達同士で解決しようと話し合い、少しずつ自分の気持ちの切り替えもでき相手の思いに気付けるようになってきた。 | A |
| | | 園児の表情や行動を温かく見守りながら、思いを受け止め自尊感情を育てる | A | | A |
| | | 様々な経験を通して、協調性や思いやりの気持ちを育てる | A | | A |
| | | 園の様々な人との交流を通して、自己を発揮したり、認められる経験をする お互いのことを認め合い、共に育ちあう仲間づくりを行う(国籍・ジェンダー・障害等) | A A B | | A A A |
| 教育・保育内容 | 子どもたちが意欲的に遊びを楽しみ遊びを通して学ぶための、年齢にあった環境整備や教材研究を行う 特に自然やごっこ遊びについては園内研修で学びを深める 公開保育を行い、環境整備や活動について学ぶ | 自然とのふれあいや実体験を大切にし、生活や遊びの中での学びを保障する | A | 3つある園庭の特色を活かし自然物に触れたり、固定遊具で体幹を強したりルールのある集団遊びを存分に楽しめた。室内でも年齢の興味関心に合った玩具を用意し、自分でしたい遊びを選ぶように環境を整えた。また、アトヨガで気持ちがほっとしたり、ごっこ遊びでことばも豊かになり、保育教諭や友だちとやりとりしながら遊ぶ姿が増えている。菜園活動では収穫物に触れたり給食で食べたりして食育にもつながった。 | A |
| | | 園児の意欲や探求心などを引き出す保育教諭の関わりを大切にする 園児の興味・関心に基づき教材準備を行い、園児が主体となり自ら関わられる環境を整える あそびの中で思考力や集中力を養い、成功体験や失敗体験からの学びを大切にする | A A B | | A A A |
| 小学校との連携 | 行事や散歩などを通して小学校へ行ったり、体験学習や委員会活動など小中学生を受け入れたりして子ども同士の交流をする 小学校の授業を見学し小中学校教育への理解を深める 園の公開保育、就学相談等の機会に職員間で交流を図る | 小学校児童と年長児との交流や体験学習の受け入れ、小学校への散歩等意識して交流する | B | 周辺散歩や裏園庭へ移動する時には、地域の小学校の近くを通り建物の存在を知らせるようにした。また、災害時の2次避難場所としても園児に周知した。年長児は小学校体験で小学校児童と交流を持つこともできた。各年齢とも養護を土台として10の姿を意識し計画を作成している。 | A |
| | | 授業見学、地域の会議等の連携を通して小学校の教育について学び、理解を深める | B | | A |
| | | 乳幼児期に育てたい力が小学校以降の学びにつながるような指導計画を作成し実践する。 | A | | A |
| | | 公開保育を行い、園の教育・保育について意見交流を行い、接続期の教育・保育の質の向上につなげる | B | | B |
| 地域との連携 | 地域行事へ職員や子どもが参加する こども園行事へ地域の方を招待する 地域子育て支援の取り組みをする | 地域の行事に職員や子どもが参加し、地域に園の教育・保育を発信する | A | 周辺散歩に出かけ地域の方と出会ったときには積極的に挨拶をしたり『かかるとも親子応援隊』に5歳児や主任保育教諭が参加し関わりを持つことができた。園庭開放やリフレッシュ預かりを利用される方にも安心できる居場所になれるよう、遊びや情報提供を工夫している。 | A |
| | | 園の行事を通して地域の方と交流し、豊かな人との関わりを行う | A | | A |
| | | 地域の関係機関や団体等と連携、協力を図り適切な子育て支援を行う | A | | A |
| | | 園の機能を発揮し、職員が地域子育て支援に関わり遊びや情報を提供する | B | | A |
| 資質向上を職員がめざす | 公開保育・園内研修で実践検討等を行い教育・保育を学びあう 学びのシートの作成を通して、5領域と10の姿を意識した教育・保育を学ぶ | 互いの実践から学びあひ園の教育・保育について意見交流し、園の教育・保育の質の向上を図る | A | フォトニュースや学びのシートなどで他クラスの実践も知り、公開保育や園内研修を通して保育教諭の関わり方について検討することができた。様々な人が園児に関わるので、引継ぎノートや昼寝の時間を利用した会議などで情報共有しチーム力を向上させた。 | A |
| | | 職員同士の交流や情報交換を円滑におこない、園児の学びと育ちをつなげていく | A | | A |
| | | 5領域と10の姿を意識した教育・保育を学びあひ、計画・実践し、教育・質の向上を図る | B | | A |

今後の取り組むべき課題

| 課題 | 具体的な取組方法 |
|----------------------|---|
| 異年齢交流の充実 | 異年齢交流の中でリズムやふれあい遊び、アトヨガや散歩など一緒に過ごしながらつながりを持つたり体幹や体作りをしていく |
| 主体的に活動できる環境や教育・保育の充実 | 園内研修でグループに分かれ計画や見通しを持って、園児の興味・関心に応じた教材の工夫や実践を出し合いながら学ぶ |

園長より
 この一年間、こどもたち一人一人の気持ちを丁寧に受け止め「やってみたい」と思えるような環境づくりを心掛けてきました。自分で試すことであきらめずに繰り返し取り組む姿も増えました。また、今年は異年齢児とたくさん交流する機会を持ち、思いやりの気持ちを十分感じることも出来ました。次年度は園外との交流も意識し、全職員でこどもたちの育ちを支えていきたいと思います。

